

# FINA 競泳ワールドカップ



元オリンピック選手  
日本水泳連盟理事  
解説 ● 萩原智子  
取材&構成 ● 田坂友規

今年の競泳ワールドカップでも強さを見せる瀬戸



新しい種目にチャレンジする萩野



## 世界と肩を並べるレベルの男子陣 勝負に記録に見どころ満載

MEN

今夏のバルセロナ世界水泳の400m個人メドレーで金メダルを獲得した、**瀬戸大也**選手（JSS 毛呂山）には注目です。もともと短水路を得意とした選手で、2011年の競泳ワールドカップ・ヨーロッパラウンドでは常に表彰台に名を連ね、同年の東京大会では400m個人メドレーで当時の短水路日本記録を樹立。翌12年の競泳ワールドカップ東京大会でも200m個人メドレーで、そして12月の世界短水路選手権で400m個人メドレーの短水路日本記録を樹立しました。「長水路で戦えるような力を持ちたい」とは、彼が常に口にしていた言葉。それを今年のバルセロナ世界水泳で実現しました。個人メドレーの短水路レースでは、ターンと種目の切り替えテクニックが重要。もともと細かい技術に定評のある瀬戸選手は、今年の東京大会でも、会場を大いに沸かす泳ぎを見せてくれるでしょう。

バルセロナ世界水泳で多種目でメダルを獲得し、マルチスイマーとしての才能を開花させたライバルの**萩野公介**選手（東洋大）も負けていません。2011年の東京大会では、200m個人メドレーで日本記録を更新しており、テクニック、スピードともに申し分ありません。瀬戸選手、萩野選手の戦いは必見です。

自由形短距離には、**塩浦慎理**選手（中央大）、**伊藤健太**選手（ミキハウス）という光が見えてきました。中東シリーズに出場したこの2人は、自由形での表彰台こそ選りましたが、決勝の舞台で世界と肩を並べるまでに成長。この中東シリーズでも戦った、50m自由形の短水路世界記録保持者である大ベテラン、**ローランド・スクーマン**選手（南アフリカ）も東京大会に出場予定。世界の泳ぎを体感し、自由形短距離を引っ張る彼らがどのような成長を遂げるのか、期待しましょう。

萩野選手、瀬戸選手もそうだったように、短水路の世界大会は若手の登竜門でもあります。バタフライの**安江貴哉**選手（豊川高校）、**坂井聖人**選手（KSG 柳川）、自由形の**丸山徹**選手（スウィン埼玉）など、インターハイで活躍した高校生たちの奮闘に

も期待したいところ。

ベテランも元気いっぱい。今年で34歳を迎えた**河本耕平**選手（SNW）は、先の東アジア競技大会で、50m、100mバタフライで金メダルを獲得し、その勢いで今大会での活躍も期待できます。ロンドン五輪銅メダリストの**松田丈志**選手（コスモス薬品）は、11年東京大会の200mバタフライで世界記録まであと0秒39まで迫り、その勢いをロンドン五輪につなげました。今年は苦しいシーズンを過ごした松田選手が、今大会、どんな泳ぎを見せてくれるのか楽しみです。

その松田選手のライバルである、ロンドン五輪の200mバタフライ金メダリスト、そしてバルセロナ世界水泳では100m、200mの2冠を達成し、世界の第一人者に登り詰めた**チャド・レクロー**選手（南アフリカ）もエントリー。この2人の対決も見応え十分。

平泳ぎ陣は、豪華メンバーが出揃いました。200m平泳ぎのロンドン五輪金メダリスト、**ダニエル・ジュルタ**選手（ハンガリー）やバルセロナ世界水泳の100m平泳ぎで初の栄冠を勝ち取った、**クリスチャン・スプレング**選手（オーストラリア）がエントリー。世界記録更新の瞬間を目の当たりにできるかもしれません。日本の平泳ぎ陣も負けてはいません。200m平泳ぎの世界記録保持者**山口観弘**選手（東洋大）と、インカレの100mで59秒台を出した絶好調の**小関也朱篤**選手（日体大）が、海外3選手とどのような戦いを見せてくれるのかに注目です。

世界で活躍するトップクラスの選手たちは、スタート、ターンといった周辺技術の高さには定評があります。日本人選手にないダイナミックでありながら、地道な練習の積み重ねで習得した技術は、一見の価値あり。そして、何より楽しみなのは、短水路ならではのスピード感とダイナミックさ。長水路にはない面白さを含んだレースが満載の今大会は、ひとレースたりとも見逃しません。

# プ東京2013の見どころ

毎年、東京大会には世界トップクラス的女子選手が多く出場します。今大会も、自由形のスプリンターである**ケート・キャンベル**選手（オーストラリア）、スウェーデンの**サラ・ショーストロム**選手をはじめ、ロンドン五輪で50m、100m自由形で2冠を獲得した**ラノミ・クロモビジョ**選手（オランダ）が出場予定。対する日本のスプリンター、**内田美希**選手（東洋大）、**松本弥生**選手（日体大大学院）がどこまで世界に迫るかに注目です。数少ない世界のトップと一緒に泳げる機会を活かし、多くを吸収してもらいたいところ。内田選手は、今年は4月の日本選手権前にねんざの影響から、夏はあまり結果がふるわなかったものの、ポテンシャルは日本一と言っても過言ではありません。この大会での成長を期待しましょう。さらに、バルセロナ世界水泳で200m自由形の高校新記録を連発した**五十嵐千尋**選手（横浜サクラ）の泳ぎも見どころ。世界の舞台でも、まったく物怖じしない精神的な強さを持つ五十嵐選手。今大会でも前半から積極的に挑むレースを見せてくれることでしょう。

個人メドレーを中心に多種目で活躍する、**アリスア・クーツ**選手（オーストラリア）や**ミレイア・ベルモンテ・ガルシア**選手（スペイン）、200m、400m個人メドレー世界記録保持者の**カティンカ・ホッスー**選手（ハンガリー）の、海外選手勢の争いも見どころです。特にホッスー選手はヨーロッパシリーズ、中東シリーズともに個人メドレーはもちろん、バタフライ、自由形で優勝を重ね、ドーハ大会では200m自由形、200mバタフライ、100m、200m、400m個人メドレーの5冠を果たした、非常にタフな選手。東京大会でもホッスーの独壇場になる可能性もあります。

そのホッスー選手に待ったをかけるのは、中東シリーズで好調だった**大塚美優**選手、**高橋美帆**選手の日本体育大学コンビと、若手の**樋口恵夢**選手（セントラル浦安）。スピードレース化している世界を相手に戦うためには、短水路でも結果を残すことも大切。今大会でどのようなレース展開を見るかに注目です。

また、ドーハ大会の200m平泳ぎで、短水路高校新記録の

金メダルを獲得した**渡部香生子**選手（JSS 立石）の泳ぎも見どころです。日本選手権からバルセロナ世界水泳まで泳ぎが安定せず結果を残せませんでした。インターハイから徐々に調子を上げて、東京国体では2分23秒42の自己ベストをマーク。「上半身でも進むように泳ぎを変えていた」と話していた成果が実を結び始めています。中東シリーズでは、常に表彰台をキープ。今大会では記録にも期待がかかります。対抗する若手筆頭株の**今井月**選手（本巣SS）がどのようにレースを展開し、世界に挑むのか注目しましょう。

東京国体、東アジア競技大会で調子を上げてきたのが、ベテラン**加藤ゆか**選手（東京SC）。東京国体では、メドレーレーの引き継ぎながら57秒20をマークして、続く東アジア競技大会では銀メダルを獲得しました。世界に引けを取らない前半のスピードは必見です。バルセロナ世界水泳では不調だった**鈴木聡美**選手（ミキハウス）も今年は始動を早く、気持ちを切り替えてトレーニングに励んでいます。鈴木本来の伸びのある大きな泳ぎを期待しましょう。

今大会で世界の舞台を経験し、さらに成長してほしいのが、バタフライの**藪美涼**選手（セントラル浦安）と背泳ぎの**赤瀬紗也香**選手（日体大）の2人。200mを得意とする藪美選手の後半の追い上げに注目したいところですが、今大会は短水路。世界を相手に、若手らしく前半から思い切ったレースをしてもらいたいところです。赤瀬選手も200mを得意としています。参戦した中東シリーズのドバイ大会では100m背泳ぎで金メダルを獲得。50mでも表彰台に上るなど、スピードをつけてきて、ひとつ上のレベルに登り始めました。東京大会でもひと味違う赤瀬選手の泳ぎが見られるでしょう。

短水路とはいえ、今大会は来年に控えるパンパシフィック選手権、アジア大会への大きな足がかりになります。世界を、そしてベテランを相手に、日本代表入りを目指す若手たちの、前半から積極的に攻めるレースに期待しましょう。

## WOMEN

## 世界のスピードを見逃すな 日本の若手の成長にも期待しよう

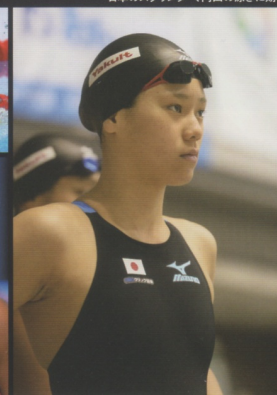
今年の世界水泳  
100m自由形を制したキャンベル



世界水泳で高校記録連発、絶好調の五十嵐



日本のスプリンター、内田の泳ぎに期待



若手の成長株・今井

